

2020 年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」

講評

評価者： 福本 徹

国立教育政策研究所

教育研究情報推進室 総括研究官

学校名

天津日本人学校

キーワード

オンライン授業、学校行事、交流

講評

教師と児童生徒、児童生徒同士が様々な場で繋がり合うことを「架け橋」として、実践を重ねてきた学校です。

まず特徴としては、オンライン授業『天津モデル』の実践があります。令和2年度は日本の学校との二重学籍の児童生徒が多くなり、授業進度のずれが生じていました。そこで、動画等の配信→ビデオ会議での質疑応答→個々の学習定着の時間という流れを組み立てました。児童生徒が個々のペースや理解度に応じた学習を進められました。また、実施が難しいとされた実技教科もオンラインでできる内容を精選し、音声や動画などを活用することで、その場にいなくても実施し、評価をしていくことが可能となりました。また、キーボード、ペンシル、イヤホンの有用性についてもアンケートによって調査を行い、いずれも学習効果を高めるために必要であるという結果が得られています。

次に、学校行事という架け橋ですが、具体的には、「離れていても一体感がもてる学校行事を創造する」という学習発表会を実施しました。大型液晶パネルやプロジェクターを活用して、オンライン上でオーディションや練習を行ったり、動画と実際の演技を組み合わせるミュージカルや合奏を演じました。国内外の児童生徒が、天津日本人学校への所属感を味わうとともに、一体感のある発表会となりました。

そして、交流という架け橋ですが、これまで行ってきた訪問形式が難しいため、オンラインでインター校と継続した関わりをもつことができ、英語への関心と意欲、コミュニケーション力の向上を図ることができました。

校務に関する環境づくりもあります。指紋認証や顔認証による教員の出退勤時間管理、中国国内アプリを利用した保護者との双方向システムなど、業務改善にも取り組んでいます。

また、これらの取り組みについて、CRT やアンケートなどで効果を確認することにトライしています。

本事業によって整備した様々な ICT 機器によって、授業だけでなく、学校行事や多くの教育活動においても安定した環境となりました。